

「想定外」に備える — 災害に対する

マグニチュード9の地震と津波が日本を襲った東日本大震災から1年9か月。首都直下地震、東海・東南海地震の発生が危惧されている今、私たちは災害に対する備えを万全なものにする必要があります。

日本赤十字社は災害救護をその活動の柱として、発災時には医療救護をはじめとする災害救護活動を長期的なスパンで展開しています。その効果的な実施には、日頃からの備えが重要です。今号では、災害に対する当支部の取り組みをご紹介します。

救護訓練・防災訓練への参加

毎年9～11月には日本赤十字社の各都道府県支部や地方公共団体が主催する救護訓練・防災訓練が多数開催されます。当支部では医療救護力の向上を目的に、それらの訓練に県内赤十字病院の医療救護班・DMATチームを積極的に派遣しています。

DMATとは災害時に被災地に迅速に駆けつけ、救急医療を行うための専門的な訓練を受けた医療チームで、県内の赤十字病院では、さいたま赤十字病院と深谷赤十字病院にチームを有しています。

■さいたま市総合防災訓練
(九都県市合同防災訓練)
(9/1さいたま赤十字病院の医療救護班が参加)



■埼玉県・飯能市総合防災訓練(九都県市合同防災訓練)
(9/2さいたま赤十字病院のDMATと小川赤十字病院の医療救護班が参加)



■日本赤十字社埼玉県支部管内
災害救護訓練
(9/29埼玉県内の全赤十字施設が参加)



■埼玉県・さいたま市国民保護実動訓練
(10/23さいたま赤十字病院のDMATと埼玉県支部のこころのケアチームが参加)



■日本赤十字社群馬県支部災害救護訓練
(10/28深谷赤十字病院の医療救護班が参加)

